

新潟県で初めて採集されたアオブダイの記録

清水哉多・原田彩知子

新潟市水族館マリニピア日本海, 新潟県新潟市中央区西船見町 5932-445(〒951-8555)

The First Record of *Scarus ovifrons* Collected in Niigata Prefecture

Kanata SHIMIZU, Sachiko HARADA

Niigata City Aquarium Marinepia Nihonkai, 5932-445 Nishifunamicho, Chuo-ku, Niigata City, Niigata Prefecture, 951-8555, Japan

Abstract

The Knobsnout Parrotfish, *Scarus ovifrons* Temminck and Schlegel, 1846, is a species of the family Scaridae, belonging to the genus *Scarus*. The northernmost distribution of this species has previously been reported as Kyoto Prefecture, and no records have existed from Niigata Prefecture. However, on 22 September 2022, three individuals of *S. ovifrons* were collected from the coastal area of Nishiyama, Kashiwazaki City, Niigata Prefecture. The collected specimens have been kept alive at Niigata City Aquarium. As these specimens represent the first record of *S. ovifrons* from Niigata Prefecture, and the northernmost record for the species, we report them based on the captive individuals.

はじめに

アオブダイ *Scarus ovifrons* Temminck and Schlegel, 1846 はブダイ科アオブダイ属の一種である。本種は東シナ海を含む北西太平洋の亜熱帯から温帯域を中心に広く分布する(中坊, 2013)。日本海側における本種の記録は少なく、山口県萩市や長門市(園山ら, 2020)、京都府(奥ら, 2023) で発見例がある。また、北限は京都府とされており(奥ら, 2023)、新潟県での採集記録はないが、2022年に新潟県柏崎市西山町沿岸でアオブダイを3個体採集した。今回採集した個体は新潟県での初記録および北限記録となるため、飼育個体に基づきここに報告する。

材料と方法

2022 年 9 月 22 日に新潟県柏崎市西山町にある海岸(図 1, 図 2) でタモ網(幅 37cm, 網目 3mm) を用い採集を行った。また、水面直下の水温も計測した。水深が 40~60cm の礫場にアオブダイと思われる個体が群れているのを確認し、3 個体採集した(図 3)。採集した個体は新潟市水族館マリンピア日本海に搬入し、同定は日本産魚類検索 全種の同定 第三版(中坊, 2013) を用いた。

採集した個体は新潟市水族館で飼育・展示しているが、1 個体は 2023 年に死亡し、他 2 個体は 1 個体ずつ別の水槽で飼育・展示中である。今回 2 個体を水槽から取り上げて記録するのは困難であったため、取り上げ可能であった 1 個体を記録する(図 4)。飼育個体の計測はデジタルノギス(Mitutoyo 製 CD- S20M: 500- 405) を用い、全長と体長、体高を 0.1mm 単位まで計測し記録した。



図 1 調査地



図 2 採集場所: 柏崎市西山町沿岸



図 3 採集時のアオブダイ

結果

記載(2025 年 10 月 15 日計測)

アオブダイ *Scarus ovifrons*

全長 208.6mm, 標準体長 164.0mm, 体高 56.1mm

新潟県柏崎市西山町, タモ網, 2022 年 9 月 22 日,
清水哉多, 水温 27.2°C

背鰭条数: IX, 10; 胸鰭条数: 14; 腹鰭条数: I, 5;
臀鰭条数: III, 9.

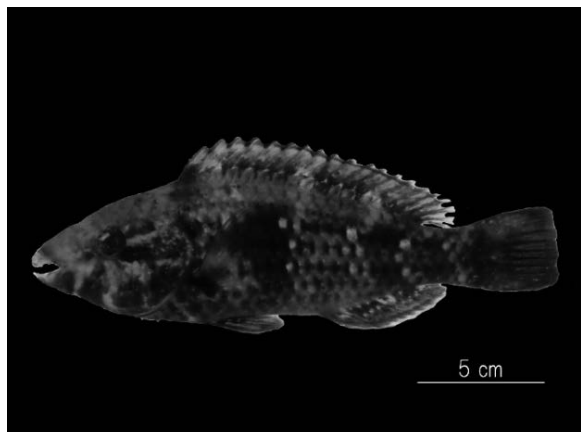


図4 アオブダイ(2025年10月15日時点)

同定

両顎歯板の外表面は比較的滑らか、尾鰭は二重湾入形にはならない、頬部の鱗は3列、眼の位置は低く頭部背縁に近くない、上顎歯板が広く露出する(図5, a)、鼻孔は2対、前鼻孔と後鼻孔は同程度の大きさ(図5, b)、躯幹部および尾部に白色横帯または白色縦帯はない。以上の形態的特徴が中坊(2013)の記載形質と一致することから、アオブダイと同定した。

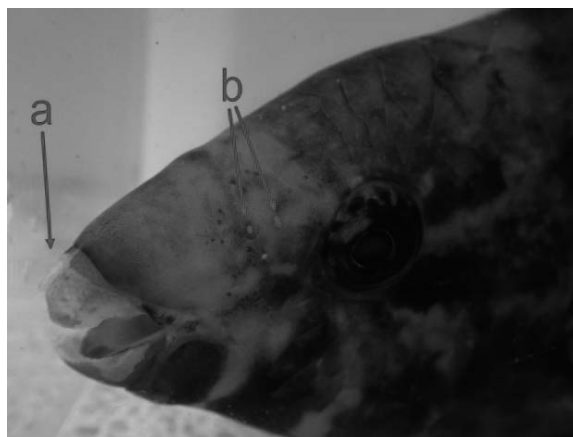


図5 アオブダイの頭部: a 歯板, b 鼻孔

備考

2022年9月22日新潟市水族館に搬入、搬入時の大きさは3cmほど(目測)で配合飼料などを与え現在(2025年12月13日時点)も飼育中である。

考察

日本海側では熱帯・亜熱帯海域を主に分布とする暖水性生物が対馬海流によって偶発的に侵入することが知られているが(本間ら, 2009)、多くは再生産せずに死滅する無効分散種である。新潟県内でも過去に本種の記録がないことから今回の個体も対馬海流によってより南方から偶発的に流されてきた無効分散種であることが考えられる。一方で、本種の安定的な分布域は今後新潟県付近まで北上する可能性が指摘されており(Sudo et al., 2022)、今回の記録はその定着過程の初期段階を示す事例である可能性も否定できない。今後も継続的に調査を行い、新潟県および日本海における暖水性生物の動向に注視する必要がある。

謝辞

本個体の飼育に尽力いただいた元新潟市水族館職員の清水淳平氏および水槽からの取り上げ、記録に際し、ご協力をいただいた新潟市水族館職員の皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 本間義治・箕輪一博・青柳 彰・中村幸弘, 2009. 近年新潟県沿岸へ対馬暖流が運んできた熱帯ならびに亜熱帯系の海洋動物. 柏崎市立博物館館報, **23**: 69–84.
- 中坊徹次, 2013. 日本産魚類検索全種の同定 第三版. pp. 1137–1144, 東海大学出版会, 東京.
- 奥香菜美・田城文人・河崎誠記・甲斐嘉晃, 2023. 京都府で記録されたアヤマエビス(イトウダイ目イトウダイ科) とアオブダイ(ベラ目ブダイ科). 日本動物分類学会誌, **54**: 44–46.

園山貴之・荻本啓介・堀 成夫・内田喜隆・河野光久,
2020. 証拠標本および画像に基づく山口県日
本海産魚類目録. 鹿児島大学総合研究博物
館研究報告, **11**: 88.
SUDO, K., MAEHARA, S., NAKAOKA, M. AND FUJII, M.,

2022. Frontiers in Built Environment. Predicting
future shifts in the distribution of tropicalization
indicator fish that affect coastal ecosystem
services of Japan. Frontiers in Built Environment,
7: 1–14.